

ラダー(到達目標)

基本理念

リハビリテーション部のセラピストである理学療法士、作業療法士は、姿勢・動作分析に基づいたリハビリテーションを提供し、地域の方々の健康増進に寄与する。

基本方針

- セラピストは治せる治療家として勉学に励む。
- セラピストは患者様の姿勢・動作分析から適切な評価を実施し、治療する。
- セラピストは患者様がリハビリテーションを受けることで明るい生活を取り戻し、笑顔が見られるようにする。

キャリアステージ		ステージ1		ステージ2		ステージ3		ステージ4		ステージ5		ステージ6
経験年数の目安		1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目	11年目
階層/役職		J		S		リーダー		主任		科長/課長		部長
キャリア開発の課題		組織へのコミットメントと専門職としての展望 専門職としての将来への準備		職種間コミュニケーションと専門職としての自己効力感 キャリア開発の定義		チームにおけるリーダーシップと専門職としてのやりがい 継続したキャリア開発		チームのマネジメントとリハビリテーション活動を通しての 社会活動 一定水準以上のジェネラルな能力の開発		部門・組織マネジメントとリハビリテーション活動を通しての社会活動 より専門的な臨床実践能力開発		
能力	主な構成要素	指導のもとに臨床実践ができる		自立して臨床実践ができる		臨床実践の指導ができる		チームのマネジメントができる		部門・組織マネジメントができる		組織を含めた地域のマネジメントができる
臨床実践能力	<ul style="list-style-type: none"> 対象理解、アセスメント 病態生理と診断 急性期合併症の予防 安全管理 (リスク管理、インシデントの対応) 廃用症候群の予防 生活再構築の支援 回復支援のマネジメント 早期離床と基本動作支援 ADL拡大、自立への支援 各障害の回復支援 再発予防、健康管理 退院支援と家族支援 社会復帰への支援、地域連携構築 社会資源の活用 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 個別性を踏まえた全人的なアセスメントができる。 2. 疾患・障害を理解し、評価判定や介入計画の立案ができる。 3. 基準・手順に沿って安全な理学療法、作業療法、言語聴覚療法が実践できる。 4. 日常生活活動の評価と自立への援助ができる。 5. 急変時の対応ができる。 6. 基本的な医療安全・感染予防・防災対策ができる。 7. 家族の理解と支援ができる。 8. 種々の報告書の作成ができる。 9. インフォームド・コンセントの必要性を理解し、実践ができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 個別性を踏まえた全人的なアセスメントができる。 2. 疾患・障害を理解し、評価判定や介入計画の立案ができる。 3. 基準・手順に沿って安全な理学療法、作業療法、言語聴覚療法が実践できる。 4. 日常生活活動の評価と自立への援助ができる。 5. 急変時の対応ができる。 6. 基本的な医療安全・感染予防・防災対策ができる。 7. 家族の理解と支援ができる。 8. 早期離床・回復支援、対象のQOL向上をめざした理学療法、作業療法、言語聴覚療法が実践できる。 9. 重篤化回避のモニタリング・合併症予防ができる。 10. 退院支援・社会資源の活用ができる。 11. 多職種と連携した活動ができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 根拠に基づき評価判定からアセスメントに至る指導ができる。 2. 基準・手順に沿って安全な理学療法、作業療法、言語聴覚療法の指導ができる。 3. 日常生活活動の評価と自立への援助の指導ができる。 4. 急変時の対応の指導ができる。 5. 基本的な医療安全・感染予防・防災対策の指導ができる。 6. 家族の理解と支援の指導ができる。 7. 早期離床・回復支援、対象のQOL向上をめざした理学療法、作業療法、言語聴覚療法の指導ができる。 8. 重篤化回避のモニタリング・合併症予防の指導ができる。 9. 退院支援・社会資源の活用の指導ができる。 10. 退院支援・地域連携構築に向けて主体的な役割ができる。 11. 多職種と連携した活動の指導ができる。 12. 難渋患者の治療に成果を上げることができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各病期における卓越した理学療法、作業療法、言語聴覚療法の実践と質向上・専門性を高める活動ができる。 2. 理学療法、作業療法、言語聴覚療法の教育・普及のための部門間・組織内活動ができる。 3. 医療動向をふまえ、理学療法、作業療法、言語聴覚療法の管理、医療安全・感染予防・防災管理の指導ができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各病期における理学療法、作業療法、言語聴覚療法の協働を推進する活動ができる。 2. 理学療法、作業療法、言語聴覚療法の教育・普及のための部門間・組織内活動ができる。 3. 医療動向をふまえ、組織外に対して理学療法・作業療法・言語聴覚療法管理、医療安全・感染管理の普及ができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 組織外に標準的な理学療法、作業療法、言語聴覚療法の実践と質向上・専門性を高める活動ができる。 2. 理学療法、作業療法、言語聴覚療法の教育・普及のための地域活動ができる。 3. 医療動向をふまえ、組織外に対して理学療法・作業療法・言語聴覚療法管理、医療安全・感染管理の普及ができる。 					
	対人能力	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションスキル 組織内外との折衝能力(交渉力) 連携能力 退院支援と地域支援構築 社会資源の活用、ネットワーク 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 個人の尊厳やプライバシーを尊重(倫理的配慮)した対象者理解ができる。 2. 自分の考えを他者に伝えることができる。 3. 対象者や多職種の意見や考えを尊重することができる。 4. 多職種とのコミュニケーションをとることができる。 5. 社会人としての適切な接遇ができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 個人の尊厳やプライバシーを尊重(倫理的配慮)した対象者理解ができる。 2. 自分の考えを他者に伝えることができる。 3. 対象者や多職種の意見や考えを尊重することができる。 4. 多職種とのコミュニケーションをとることができる。 5. チーム内の人間関係の調整ができる。 6. 社会人としての適切な接遇ができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者の権利擁護者としてコミュニケーションスキルを発揮できる。 2. 対象者とその家族との信頼関係を築き、倫理的問題に対応できる。 3. 退院支援を通して、地域関係者と積極的に関わることができる。 4. 多職種との人間関係の調整ができる。 5. 他職種との連携において、率先して主体的な関わりができる。 6. 社会人としての適切な接遇の指導ができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. スタッフのコミュニケーション能力育成の風土作りができる。 2. 地域連携を推進する人間関係が調整できる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 部門間・組織内のコミュニケーション能力育成の風土作りができる。 2. 地域連携を推進する人間関係作りに取り組むことができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 組織外とのコミュニケーション能力育成の風土作りができる。 2. 地域連携を創出する人間関係作りができる。 				
		研究能力	<ul style="list-style-type: none"> 研究の意義、目的、方法 研究活動の実践 文献検索、購読(クリティーク) 症例、事例報告 学会発表(プレゼンテーション) 誌上発表(論文作成) 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な研究の意義とその方法について理解ができる。 2. 日々の臨床実践を振り返り、疑問解明や課題の明確化に取り組むことができる。 3. 研究の基礎知識を学び、文献活用ができる。 4. 症例報告ができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な研究の意義とその方法について理解ができる。 2. 日々の臨床実践を振り返り、疑問解明や課題の明確化に、研究的視点で取り組むことができる。 3. 研究の基礎知識を学び、文献活用ができる。 4. 研究のプロセスを踏み、研究テーマを探索できる。 5. 研究の成果について発表することができる。 6. 学会発表等で用いる一般的な研究方法について理解ができる。 7. 指定された学会で症例報告ができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 継続的に自己の研究課題に取り組むことができる。 2. 指定の雑誌に論文投稿ができる。 3. 指定の学会で研究の成果を発表できる。 4. 症例報告の援助ができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自らが目指す専門領域・分野の明確化と研究的取り組みができる。 2. 継続的に指定の雑誌に論文投稿ができる。 3. 指定の学会で研究の成果を発表できる(効果的なプレゼンテーションができる)。 4. 症例報告の指導ができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. チームでの研究を計画実践できる。 2. チームでの研究成果をまとめることができる。 3. 研究の成果を専門学会学術誌に投稿できる。 4. 研究の成果を専門学会で発表できる。 5. 研究の適切な指導ができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 多施設での研究活動を計画実践できる。 2. 多施設での研究を指揮し、研究成果をまとめることができる。 3. 研究の成果を海外の学術誌に投稿できる。 4. 研究の成果を海外の学会で発表できる。 5. 継続した研究活動を推進できる。 			
			指導(教育)能力	<ul style="list-style-type: none"> 臨床モデルの実践 実践の質の向上活動 臨床実践における教育 臨床実習指導 職場の後輩育成 相談、指導 教育心理 研修会等における教育(講師) 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生への臨床実習指導の意義とその方法について理解できる。 2. 学生・後輩等が自己決定したことを理解できる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新入職員に対し、基本的な臨床実践の一連のプロセスを指導できる。 2. プリセプターの役割ができる。 3. 後輩や学生に対して、専門職としての指導ができる。 4. 学生や後輩等が自己決定できるよう支援ができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. チームの教育活動を企画・運営ができる。 2. 学生の臨床実習指導者の役割ができる。 3. OJTを通じた臨床実践の指導ができる。 4. 院内外の研修会における講師や助手ができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 職場における人材育成方法に基づき、後輩の育成ができる。 2. チームにおける人材育成について、率先して主体的に係わることができる。 3. 各種研修会における講師や学会の座長などができる。(目標管理における支援・指導ができる) 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 部門・組織の人材育成ができる。 2. ある特定の分野における研修会や学会における講師や座長などができる。 3. 他部門の人材育成に協力ができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 多施設の人材育成に協力できる。 2. ある特定の分野における研修会や学会の運営に協力できる。 3. 住民の教育・啓発活動に寄与できる。 		
マネージメント能力				<ul style="list-style-type: none"> 他職種との協業、連携推進 組織マネジメント リーダーシップとメンバーシップ 情報管理 (回復支援のケアマネジメント) 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療人としての自覚をもち、行動(報告・連絡・相談)ができる。 2. 組織の理念を理解し、組織の一員として責任ある行動ができる。 3. 属する組織・チームにおけるメンバーの役割を理解し、行動ができる。 4. 他職種の役割を理解し、連携ができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療人としての自覚をもち、行動(報告・連絡・相談)ができる。 2. 組織の理念を理解し、組織の一員として責任ある行動ができる。 3. 属する組織・チームにおけるメンバーの役割を理解し、行動ができる。 4. 他職種の役割を理解し、連携することができる。 5. 同職種間におけるリーダーの役割ができる。 6. 多職種との協業・連携に主体的な関わりができる。 7. 資源(人・物・予算・情報等)の有効活用ができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 組織・チームにおけるリーダーとしての役割ができる。 2. 組織・チームにおけるビジョンをもち、中長期、年間の計画を理解できる。 3. 組織・チームの目標達成に向けて主体的に行動ができる。 4. 組織の業務改善に取り組むことができる。 5.トラブルに関して倫理的・道徳的な見解をもって対処ができる。 6. 社会の変化や医療情勢に関心をもって情報収集ができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 組織運営を行うと同時に、医療人として近隣地域に貢献することができる。 2. ビジョンをもち、中長期、年間の計画を立案し、運営できる。(保健・医療・福祉の動向をとらえ、社会のニーズに応えられる理学療法、作業療法、言語聴覚療法が実践できる。理学療法、作業療法、言語聴覚療法部門の委員会活動を運営できる。) 3. チームをマネジメントし円滑な組織運営を行うことができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健・医療・福祉の動向をとらえ、社会のニーズに応えられるよう、部門・組織運営を行うことができる。 2. 部門・組織のリーダーとして、地域マネジメントを行うと同時に、より良い組織運営を目指した革新に取り組むことができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健・医療・福祉の動向をとらえ、地域社会のニーズに応えられるよう、地域マネジメントを行うことができる。 2. 部門・組織のリーダーとして、地域マネジメントを行うと同時に、より良い地域マネジメントを目指した取り組みを行うことができる。 		
	自己啓発			<ul style="list-style-type: none"> 職能団体への参画 倫理的視点 能力開発 自己到達度(クリニカルラダー) 目標管理 社会貢献 ボランティア 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育計画に沿って学習ができる。 2. 問題意識をもち、自己の学習課題を明確にできる。 3. 専門職として自覚ができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育計画に沿って学習できる。 2. 自己のめざす方向性・専門職種観の確立に向けて、継続的に施設内外の教育活動や学会に参加することができる。 3. 学習成果を後輩・同僚に伝達すると共に活用ができる。 4. 専門職種の発展・開発・工夫に向けて取り組むことができる。 7. 目標管理について理解し、自己の役割を実践できる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 倫理的感性を高め、後輩の模範となることできる。 2. 自己のめざす方向性・専門職種観の確立に向けて、継続的に施設内外の教育活動や学会に参加することができる。 3. 学習成果を後輩・同僚に伝達すると共に活用ができる。 4. 専門職種の発展・開発・工夫に向けて取り組むことができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 倫理的感性を高め、後輩の模範となることできる。 2. 専門領域の実践能力の維持向上と、自己のキャリアアップの継続的な取り組みができる。 3. 社会の変化や保健・医療・福祉の動向をとらえることができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 職能団体および都道府県において役割をもち、社会的な貢献ができる。 2. 専門領域の実践・指導能力の維持向上と、自己キャリアアンカーを認識できる。 3. 社会の変化や保健・医療・福祉の動向をとらえ、政策立案に参画できる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 職能団体および都道府県、他職能団体・学術団体等の活動に協力し、社会的な貢献ができる。 2. 社会の変化や保健・医療・福祉の動向をとらえ、政策立案に参画できる。 		